

## 1 調査の目的

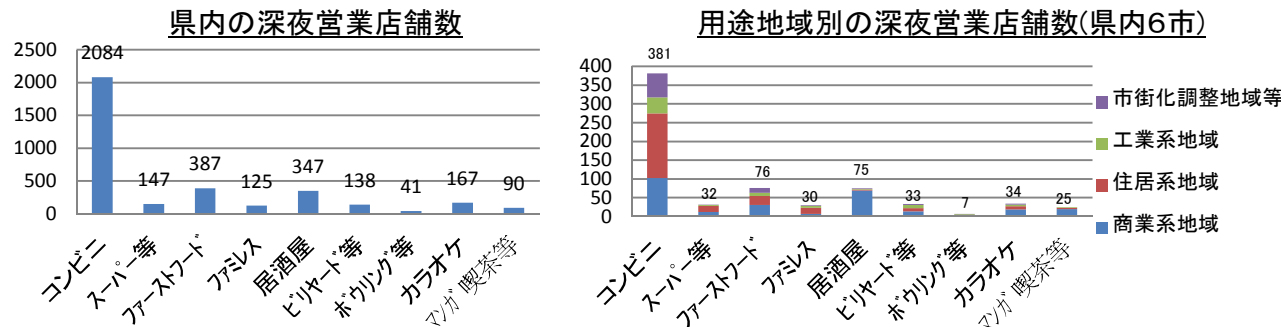
県内における深夜営業店舗の営業実態を把握  
深夜営業店舗に対する県民の意識・行動を把握

施策立案及び普及啓発活動の基礎  
資料として活用

## 2 調査の内容及び結果

### (1) 資料調査

深夜営業店舗（23時～4時を通じて営業）の情報をホームページにより把握  
県内6市（熊谷市、川口市、行田市、草加市、朝霞市、新座市）は用途地域別立地状況も把握

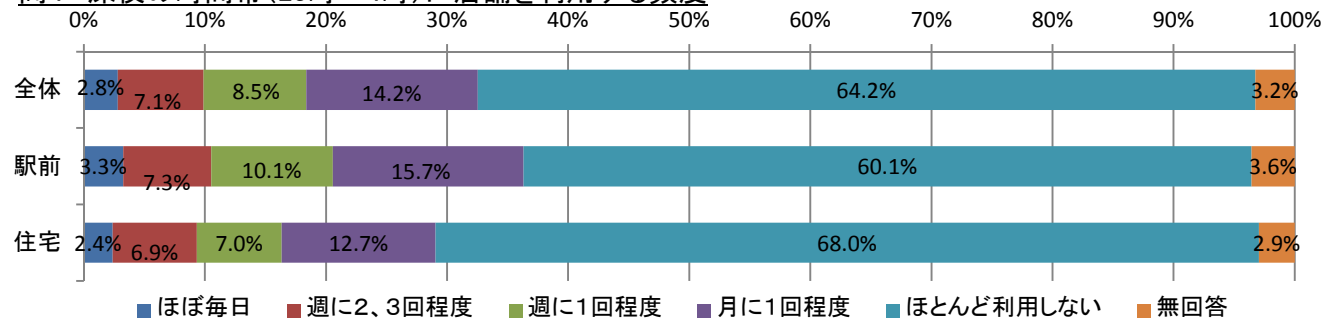


県内の深夜営業店舗ではコンビニが最も多い  
多くは商業系地域にあるが、コンビニ、スーパー、ファミレスは住居系地域にも多い

### (2) アンケート調査

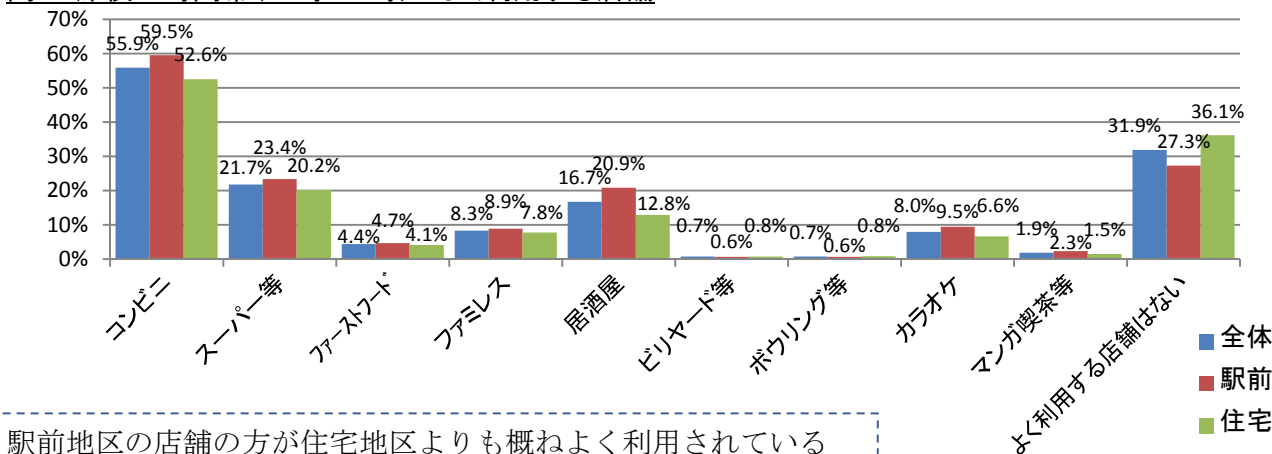
対象：県内3市（熊谷市、草加市、新座市）の駅前地区、住宅地区の県民10,800名  
方法：アンケートはポスティングにより配布し、郵送で回収（回収率：25%）

#### 問1 深夜の時間帯(23時～4時)に店舗を利用する頻度



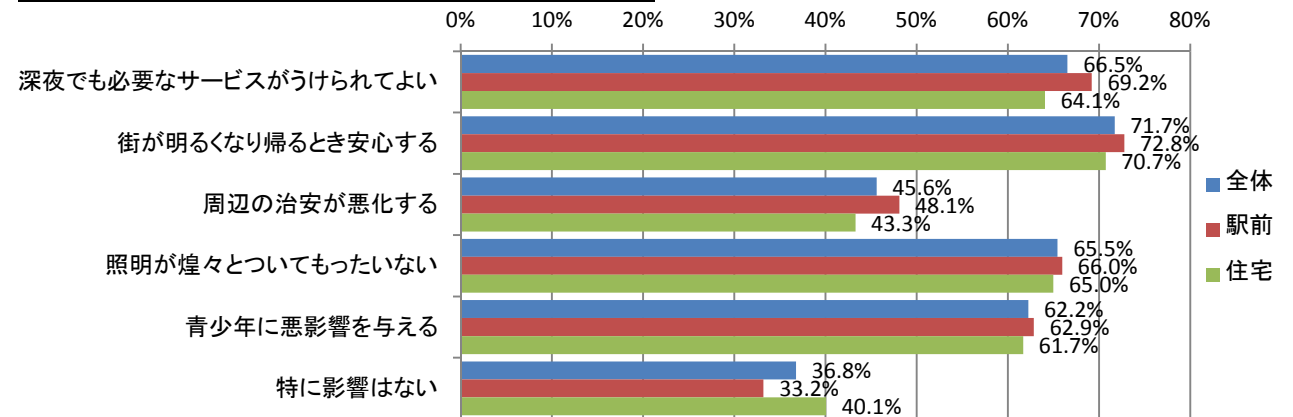
「ほとんど利用しない」人が全体では約3分の2、駅前地区では6割、住宅地区では約7割

#### 問2 深夜の時間帯(23時～4時)によく利用する店舗



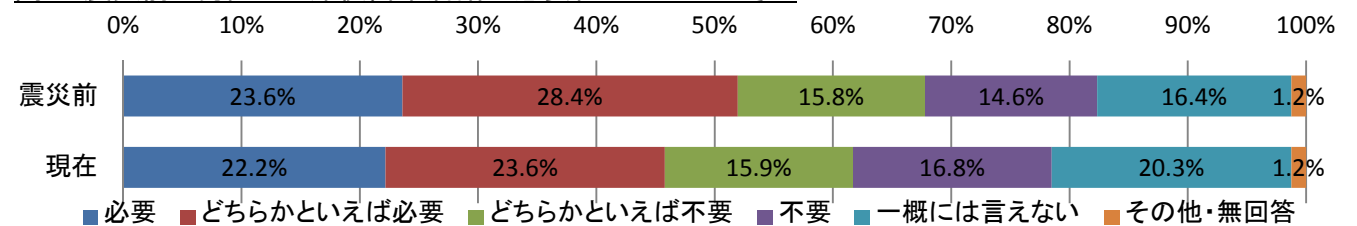
駅前地区の店舗の方が住宅地区よりも概ねよく利用されている

#### 問3 深夜に店舗が開いている影響についての意見



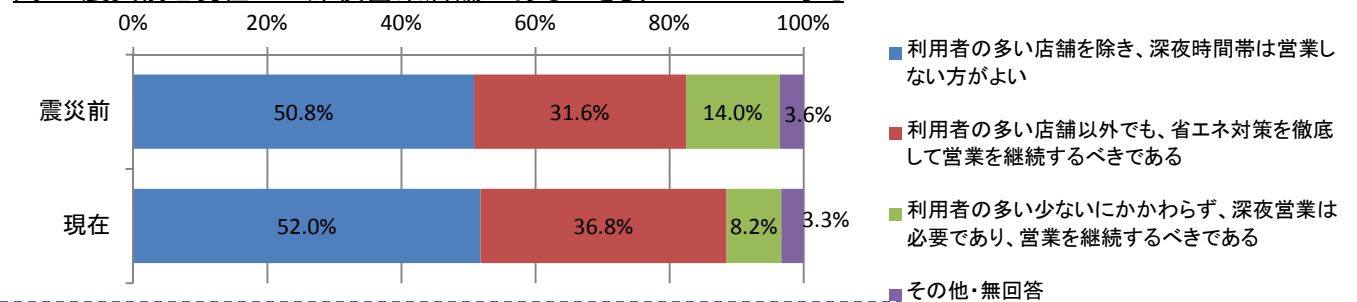
利便性、防犯面を評価する意見、節電を求める意見、青少年への影響を心配する意見、共に高い  
利便性の評価が駅前地区で高いのは、利用頻度と関係していると考えられる  
周辺の治安の悪化を心配する意見が駅前地区で高いのは、深夜営業店舗の種類によると考えられる

#### 問4 震災前と現在での深夜営業店舗の必要性についての考え



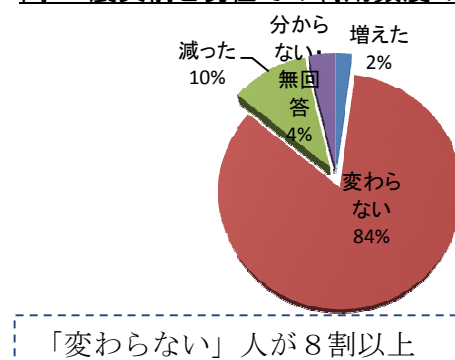
震災前に比べ、「どちらかといえば必要」が減少し、「一概には言えない」が増加

#### 問5 震災前と現在での深夜営業店舗のあるべき姿についての考え



震災前に比べ「省エネ対策を徹底して営業を継続すべき」が増加

#### 問6 震災前と現在での利用頻度の変化



「変わらない」人が8割以上

## 3 まとめと今後の課題

- 深夜営業店舗は県民生活に深く根ざしている
- 震災は深夜営業店舗について考え直すきっかけになった
- 地球温暖化に配慮した深夜営業店舗のあり方を探る必要があるのではないか